天翔（てんしょう）　倭（やまと）し美（うる）わし」

立田龍宝　作

倭(やまと)建(たけるの)命(みこと)は日本の歴史上を代表する悲劇の英雄である
景(けい)行(こう)天皇の皇子の 一人で　幼少の名を小碓(おうすの)命(みこと)といい　美しい外見とは裏腹に怪力な人物であった　後に倭建命となる

東方征伐から帰る途中　伊吹山へ行き　神を素手で討ち取ろうと出立するが　そこに白い大猪が現れる
命はこれを神の使いと思い無視したが　実は神自身の 化身で命は失神してしまった　山を降りた命は　居醒めの清水で正気をやや取り戻すが　すでに病の身となり弱った体で倭を目指して進んだ
そして能煩野に到った命の足は歩みを止め　心は故郷である倭へ飛んでいた場面は　命が倭を思い　美しき倭」倭は美しい」「そんな倭に帰りたい」と　倭を見つめながら　天(あま)翔(がける)る心」を持ち続けた命の美しく逞しい容姿を表現した

倭は国のまほろば　たたなづく　青垣やまこもれば　倭し美わし」

この国偲びの歌を詠って亡くなるのである

そして真っ白な鳥と化した命は　伊勢を出て　河内の国志幾に留まり　そこに陸を造り　やがてまたその地より天に翔り　青い垣根のように囲まれた山々を覗きながら　透きとおった高く広い大空を飛び、故郷のまほろばを　美しき倭を指して飛んだ

甚大な被害を齎(もたら)した　東日本大震災からの復興を目指し　東北人の絆が地域や国の垣根を越えて　更にさらに 一歩を踏み出すことをせつに願うねぶたである